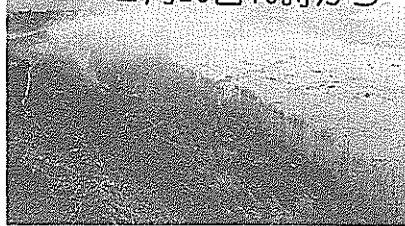


国分川芝焼き 2月25日10時から



国分川を市民みんなで美しく、今年も国分川の芝焼きと一斉清掃を行いますので、ご参加

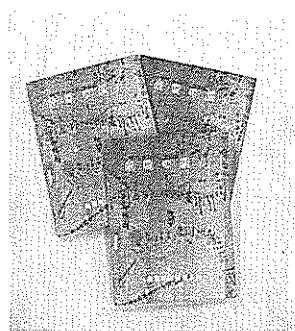
読みやすい市史

「南国の歴史」を刊行

原始から現代までの南国市をわかりやすくまとめた「南国の歴史」がこのほど刊行されました。

これは、市教育委員会が、市文化財審議会の北岡博会長に編集を依頼して製作を進めていたもので、昭和五十七年に完成した「南国市史」のダイジェスト版。中学生以上を対象とした読みやすい市史です。

A五版で一七四ページ、表紙には四国の古地図が描かれています。一冊千円でお分けします



ご希望の方は市立図書館か市役所の市史編集室までお求めください。
この本についてのお問い合わせは、市史編集室（☎2111内線532）まで。

ください。芝焼きの後は七草がゆを予定しています。いっしょに国分川の春を楽しみましょう。
■日時 二月二十五日(日)午前十時から午後一時
■集合場所 南国市農協久礼田支所、国分橋、岡豊橋、岡豊沈下橋
■主催 国分川をきれいにする会、南国土木事務所、南国市
芝焼きができる服装で参加してください。かまやくま手があると便利です。手袋と手ぬぐいは準備します。

同和教育シリーズ 部落はいつ、だれが、なんのために つくったのでしょうか②

十六世紀の後半、戦国動乱の世の中を治め、天下を統一する仕事で織田信長によって始められ豊臣秀吉によって完成されました。

彼らは地侍・国侍と呼ばれて

いた土豪たちの力を利用して、天下を統一しました。これらの

土豪たちは、自分の土地の百姓たちも動員して戦場に赴いたので、戦国時代は農民と武士の区別はほとんどありませんでした。

秀吉は、一度天下を掌中に収めると、これらの土豪や農民たちの力は、自分の支配を脅かす

危険なものと考え、「刀狩り」を行って、農民から刀、その他

あらゆる戦道具を取り上げて、反抗をできないようにし、土地

を捨てて武士の道を選んだ者には禄を与えて城下町に生活をさせる「兵農分離」の政策をとりました。

次に、全国の田畑の面積、収穫高、所有者を調べる厳しい検地を行いました。これを「太閤

検地」と言います。検地は村単位で一筆ごとに行われ、土地の所有者を年貢負担者として「一地一作」にしました。なかでも

文禄検地（一五九四年）は、大がかりなものでした。

秀吉によって配置された大名、代官や、派遣された検地奉行によって、村ごとに田畑の良し悪し、面積、取り高が調べられ、

田畑を耕していた農民は「本百姓」の身分とされ、年貢を納めたり、工事などで働かされる義務を強制されました。

当時、秀吉は、検地奉行に「もし、検地に反対する者がいたら、それが地主なら城へ追い込んで切り殺せ。百姓ならば村の一つ

や二つなくなってもかまわないから、皆殺しにせよ」と厳しく命令を出しています。

土佐でも、長宗我部氏が秀吉の命を受けて、土佐全土の検地を、一五八七年から十二年がかりで行いました。これが「長宗我部検地」で、その記録は、現

在でも「長宗我部地帳」として県立図書館に保存されています。

こうした農民たちは、検地された土地に縛り続けられ、その子孫に至るまで、重い年貢を取り立てられる身分とされていき

ました。

秀吉は、支配者としての武士階級、年貢負担者としての農民階級の身分を固定し、各身分の者が自分の枠内で生活するようにさせるため、更に「身分統制令」も出しています。

武士に仕える者は、町人、百姓になつてはならない。武家に仕える者は、かつてに主人を替えてはならない。それに背く者は厳罰に処す。といった厳しいものでした。

これらの政策は、後の幕藩体制の基礎を成し、身分支配政策のうえでも重要な位置を占めるようになりました。

（つづく）